

北九州市門司麦酒煉瓦館の今後のあり方について

令和4年度、指定管理期間が終了する北九州市門司麦酒煉瓦館（以下、麦酒煉瓦館）について、現状を踏まえ、今後のあり方を検討していくもの。

1 麦酒煉瓦館の概要

- (1) 大正2年に帝国麦酒株式会社（現、サッポロビール株式会社）門司工場として建築された歴史的煉瓦建造物。
- (2) 平成17年、大里地区に「ビール工場発展の歴史等が体感できる展示を行う観光施設」「イベント等や市民の憩いのスペースとして活用することで地域の活性化に寄与する施設」として開館。
- (3) 指定管理制度による管理運営、入館料や駐車場収入等により運営費を賄う完全利用料金制を採用。現在管理者は「NPO法人門司赤煉瓦倶楽部」、期間は令和5年3月31日まで。

【参考】門司赤煉瓦プレイス

- ・歴史的煉瓦建造物「麦酒煉瓦館」「赤煉瓦交流館」「旧醸造棟」「組合棟」等から形成される観光集客拠点。
- ・麦酒煉瓦館を除く3施設は、「NPO法人門司赤煉瓦倶楽部」が所有。（別紙参照）

2 麦酒煉瓦館の課題

- (1) 利用者減少による収支状況の悪化
- (2) 施設の老朽化
- (3) 展示物の魅力低下
- (4) ウイズコロナ時代の新しい生活スタイルへの転換

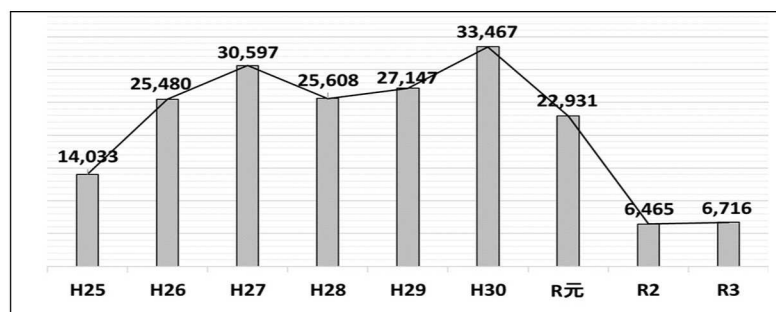


図:麦酒煉瓦館利用者数の推移(単位:人)

3 今後の対応

麦酒煉瓦館の施設としてのあり方や運営手法について、年内を目途に検討する。そのため、通常7月より開始される次年度以降の指定管理者の公募をいったん見合わせている。

- 【検討項目】
- ・施設の位置づけ
 - ・管理運営のあり方
 - ・建物保全のあり方
 - ・NPO法人が管理している他施設との連携 など

門司赤煉瓦プレイスの土地・建物所有者の現状

